

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	医療福祉教育・管理
学籍番号	20S3081	院生氏名	石野 麻衣子
通学キャンパス	福岡キャンパス		
論文題目	理学療法士におけるメンタリング行動指標の開発とその信頼性・妥当性の検証		
審査結果(枠で囲む)	合格		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>本論文は既発表論文である。本研究は理学療法士の人材育成において重要な上司や先輩からの支援である、メンタリング行動の特性を測定するための尺度の開発を目的として、メンタリング行動指標の作成およびその信頼性と妥当性を検証したものである。</p> <p>参考文献(2件)にオリジナルの項目を加えた「メンタリング行動指標に関する質問(37項目)」を作成し、「後輩指導で工夫していること(自由記載)」、基本情報(年齢、経験年数、役職者の有無、所属機関など)と合わせたアンケート調査(Googleフォーム)を実施した。アンケートは41施設の所属長に依頼し、401件の回答が得られた。分析は、探索的因子分析にてメンタリング行動指標の因子的妥当性、またCronbachのα信頼係数により内的妥当性(信頼性)を検討した。さらに因子分析のモデルの因果構造について確認的因子分析を行った。探索的因子分析により、メンタリング行動が「効果的な教育支援」、「精神的支援」、「専門職のモラル」、「モデル機能」、「キャリア支援」の5因子(33項目)から構成されていることが明らかとなった。また確認的因子分析では、18項目を用いて因果構造を示すパス図を作成した。なお、因子分析の適用が妥当であること、また高い信頼性が得られていることを確認した。</p> <p>本研究は理学療法士のメンタリング行動の尺度開発の第一段階と考えられ、理学療法士を育成するメンタリング行動における、心理的・社会的側面への支援の重要性を示した点において高く評価できる。今後、さらなる研究の発展により尺度の実用化が期待される。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>審査は11月22日に行われた。他職種における類似研究の知見から本研究の新規性について、尺度作成の経緯、対象者がアンケートに回答する際の状況、アンケートの回収率、また本研究の限界や尺度を実用化するまでの計画などについて質疑がなされた。</p> <p>3. 口頭試問の結果</p> <p>口頭試問において適切に応答した。また本研究の限界を理解しつつ、実用化に向けた研究の継続計画を適切に説明した。</p> <p>4. 合否</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(医療福祉教育・管理学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	渡邊 観世子	
	副査	柗 幸伸	
	副査	稲垣 誠一	